



初夢は、どうして1月2日に見るものなの

初夢は、新年最初に見る夢

新しい年をむかえ、元旦の夜、または1月2日の夜に見る夢を「初夢」といいます。

このごろは、1月2日に見る夢を初夢という人が多いようですが、もともとは、新年になってから最初に見る夢を、初夢といたしました。

もっと昔は、節分の夜から立春の明け方にかけて見る夢のことを、初夢といたしました。そのころは、1年の始まりが、立春とされていたからです。

初夢を見る日の夜、宝船の絵をまくらの下に置いてねると、幸運な夢を見erといわれています。宝船には、七福神（幸福を運んでくる七人の神さま）が乗っているのので、縁起をかついで、そうするのです。

一富士、二鷹、三なすび

昔から、初夢に見るもののうち、縁起のいいものは、「一富士、二鷹、三なすび」といわれてきました。いちばん縁起のいい夢が富士山の夢で、二番目が鷹、三番目がなすび（ナス）というのです。日本一の山、富士山の夢を見ると縁起がいいというのはわかりますが、三番目がなすびというのは、理由がよくわかりません。（監修・田代 脩）

